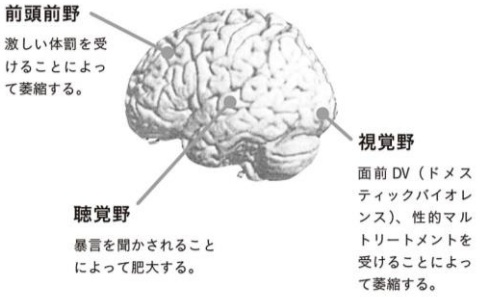
SSW 通信　No.8　2025 年 4 月

県北地域県立学校担当スクールソーシャルワーカー　田仲　輝男(大田原女子高校所属)



今年度もよろしくお願いします。自己紹介に代えて

『忘れる力』と『ビタミン i(愛)』

◎昨年 10 月、初孫が生まれました。彼女は半年で体重が二倍になり、身長は 20ｃｍ近く伸びました。私は、というとこの 10 年間で体重は変わりませんが、身長が 3 ｃｍ縮みました。彼女は当初、泣いているか寝ているか、新生児微笑が見られるくらいで表情の変化はありませんでしたが、今では声を上げて笑うようになりました。この 180 日間で彼女の体と脳はものすごい進化を遂げているのです。翻って私は様々な老化現象を体験しています。私は 40 年近く小中高生と生活を共にしてきたことが幸いしてか、体力の衰えは同年代の友人に比べて、その下降線は緩やかです。激しく感じるのは、脳の衰えです。「二階に物を取りに行って、二階に行ったら、何を取りに来たか忘れて、また一階に戻ってくるんだよ」と友人が嘆いていましたが、「あ、それ、俺もある」と慰めあってます。まず、眼鏡が見つからない。探していると、額の上にあったりします。

私が長年付き合ってきた非行少年や児童養護施設に入所している子どもたちに共通する特徴がありました。低学力です。もちろん、賢い子もいましたし、高校で 1 番になった子もいましたから、施設に入所している子が全て低学力、ということではありません。低学力以外にも、失敗を繰り返す、失敗してもめげない、何度言っても分からない、体が弱い、我慢できない、相手の気持ちが読み取れない、などが多くの子に共通していました。「どうしようもない子」「扱いづらい子」「ダメな子」として片付けてしまうのは簡単ですが、そういう子たちばかりと付き合っていた私には、そう簡単に片づけられませんでした。

先日、施設を退所して就職した A 君が大きな問題を起こし、行き場がなくて施設に戻ってきました。彼は、いわゆるネグレクトのために親元で暮らせず、施設に入所した子でした。とても明るく、元気な子で、運動好きで多くのことに前向きな子でした。彼の起こした問題は借金です。退所後の 3 年間で複数のクレジットカードローンを組み、その額は数百万円に及んでいました。借金返済の督促を逃れるため、自分のアパートには戻れずに友人宅を転々としていたのです。彼ほどではないにしても、「どうしてまた同じ失敗を繰り返すの？」という子は大勢います。

なぜ彼らはそうなのか？　彼らの生育歴を見ると、共通した特徴があります。愛情不足です。身体的、心理的虐待、ネグレクト、過干渉、…ビタミン i(愛)不足です。虐待によって脳の一部が損傷することが知られてきました。私は脳科学者ではないので、正確なことは分かりませんが、多くの子どもたちを見ていて感じることがあります。それは彼らに「忘れる力」があるのではないか、ということです。明日、食べるものがない、と考えると生きるのが辛くなります。明日も殴られるのか、と思うと今日が辛いのです。だから、食べる物が無かったこと、昨日殴られたことを「忘れる」のです。今だけを考えるのです。失敗したこと、辛いこと、嫌なことはすべて「忘れて」無かったことにするのです。「あなたの将来に有用だから、この難しい問題を解きましょう」「努力して、多くの単語を覚えましょう」…明日の希望が見えない子に、そんな言葉はむなしく通り過ぎます。母親にいびられ続けた子が言いました。「本当はお母さんは何でもできてすごく良い人なんだ」…そう考えないと耐えられないのです。

児童自立支援施設、少年院、刑務所を経験し「彼の人生は終わりだ」と私も諦めた子がいました。その彼が 30 歳を過ぎて更生したのです。40 歳を過ぎた彼は今、優しい奥さんと、可愛い 3 人の子の父として幸せな家庭を築いています。非行を犯して施設に入ってから、その後の人生で様々なビタミン i(愛)をもらったのでしょう。彼の「忘れる力」は弱くなっていたのです。私も「ビタミン i(愛)」で「忘れる力」が弱く…ならないなぁ